

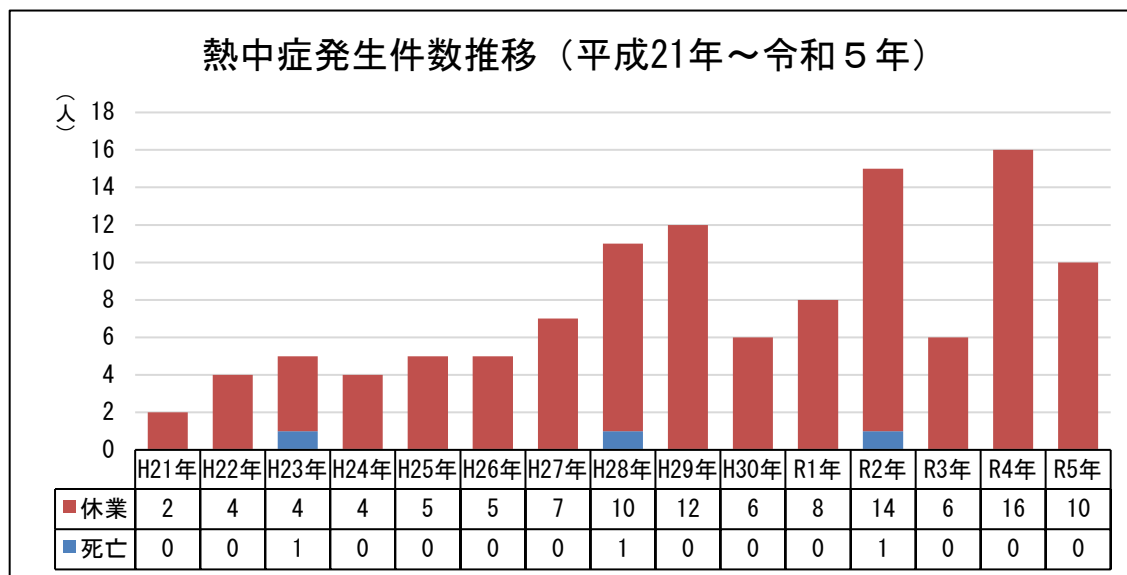
宮崎県内における職場での熱中症による死傷災害の発生状況 (休業4日以上 の労働災害)

1 熱中症による死傷者数の推移(平成21年～令和5年速報値)

職場での熱中症による死傷者数は、平成21年以降の15年間で116人となっており、長期的には増加傾向にある。

令和5年の死傷者数(速報値)は前年を下回る10人となる見込みである。

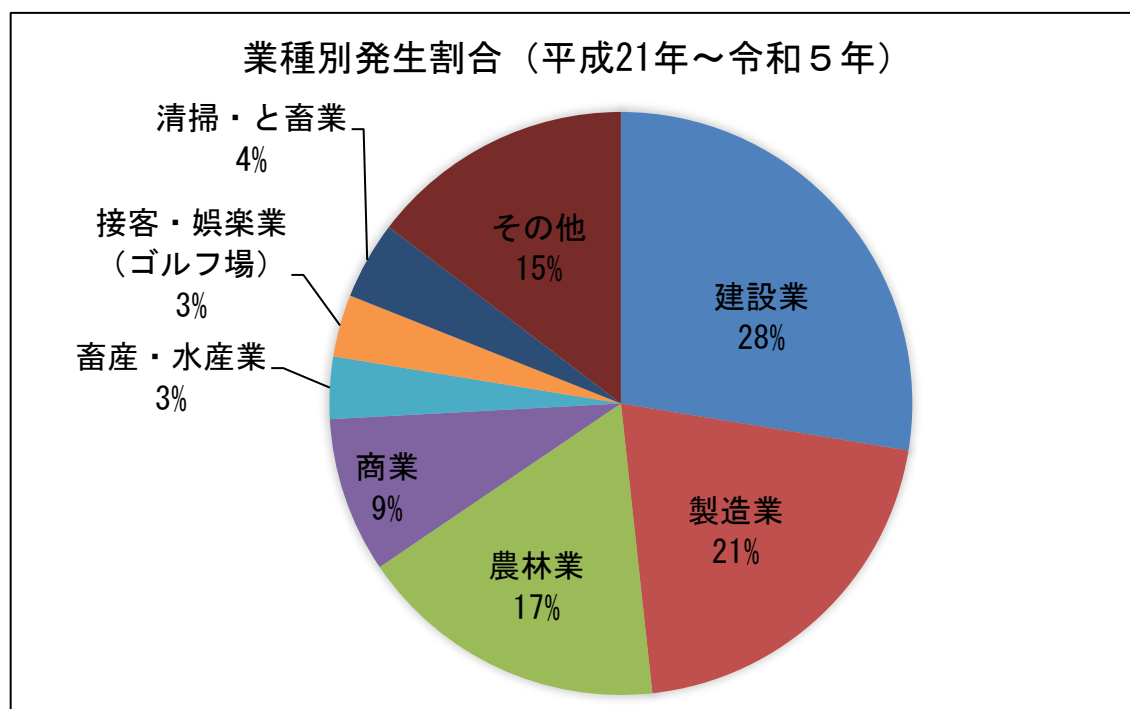
なお、15年間で3人が熱中症で亡くなっている。



2 業種別発生状況(平成21年～令和5年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和5年速報値)の業種別の熱中症の発生状況を見ると、建設業が32人(28%)で最も多く、次いで製造業が24人(21%)、農林業が20人(17%)と続いており、この3業種で全体の6割以上を占めている。

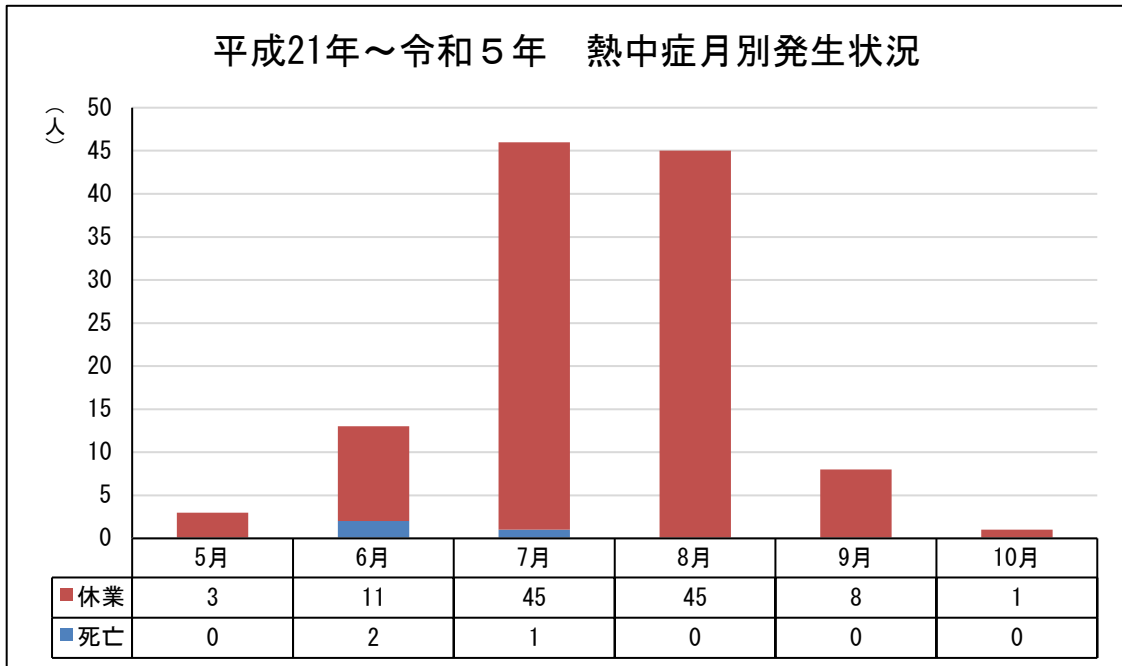
死亡は林業で2人、建設業で1人発生している。



3 月別発生状況(平成 21 年～令和5年速報値)

平成 21 年以降(平成 21 年～令和5年速報値)の月別発生状況をみると、毎年、梅雨明け・盛夏の時期となる 7・8 月に全体の約 8 割(90 人)が発生している。

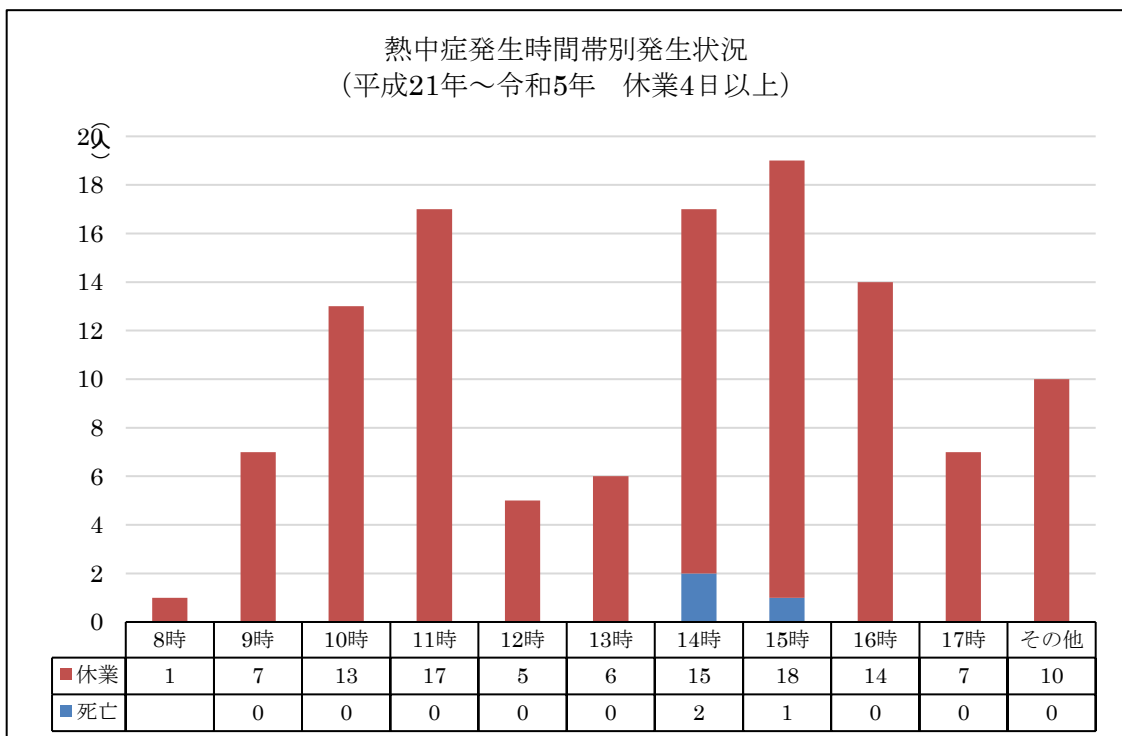
死亡は、6 月に 2 人、7 月に 1 人発生している。



4 時間帯別発生状況 (平成 21 年～令和 5 年速報値)

平成 21 年以降(平成 21 年～令和 5 年速報値)の時間帯別発生状況をみると、気温が上昇する 10・11 時台、気温が最も高くなる 14 時から 16 時台が多くなっている。

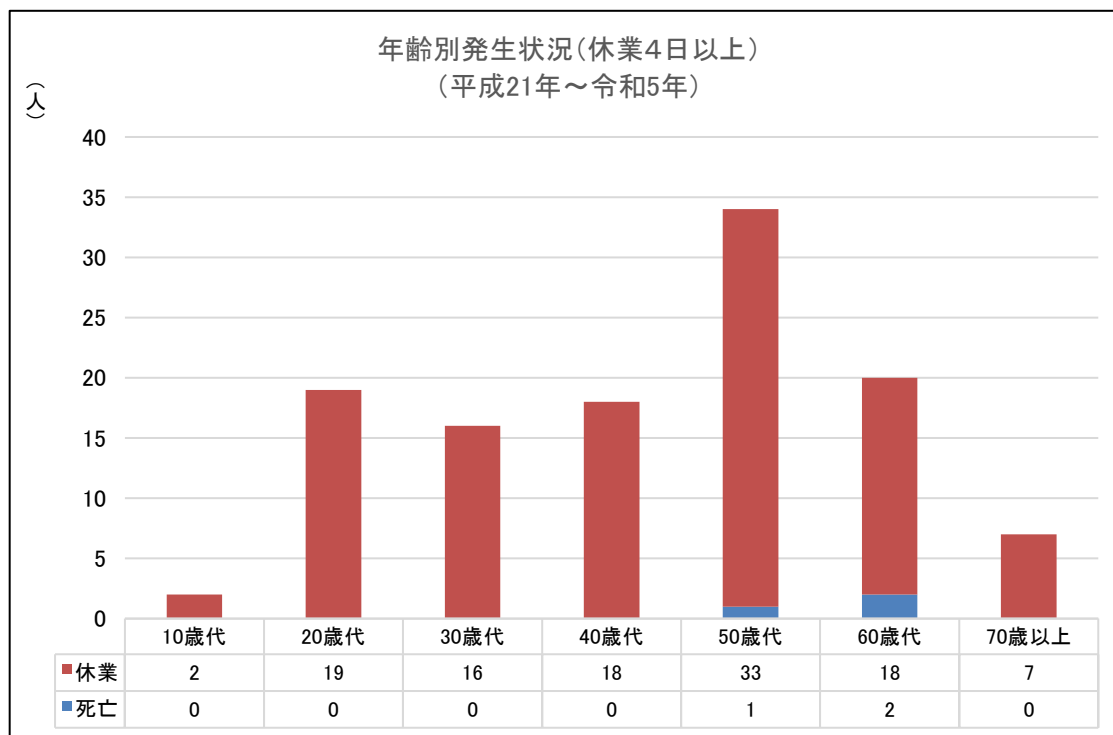
死亡は、14・15 時台に発生している。



5 年齢別発生状況(平成21年～令和5年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和5年速報値)の年齢別発生状況を見ると、50歳代が34人で全体の29%を占めており、次いで60歳代、20歳代、40歳代、30歳代となっている。

死亡は、50歳代が1人、60歳代が2人となっている。



※ 統計は労働者死傷病報告(休業4日以上)の数値である。

宮崎県内における職場での熱中症による死傷災害事案の概要
(令和5年、休業4日以上 of 労働災害)

番号	年	月	業種	年代	事案の概要
1	R5	7月	建設業 (土木工事)	60歳代	ブロック積の作業中に気分が悪くなり、1時間程クーラーの効いた車内で休憩したが回復せず病院を受診した。(休業10日)
2	R5	7月	運輸交通業 (道路貨物運送業)	20歳代	配達を終え車両へ戻る途中に気分が悪くなり、救急車搬送された。(休業4日)
3	R5	7月	建設業 (建築工事業)	20歳代	屋外での建方作業中に熱中症の症状が出た。(休業7日)
4	R5	7月	貨物取扱業	40歳代	午前9時から午後4時まで風通しの良くない倉庫内でフォークリフトによる荷物の運搬作業を行ったところ、熱中症となり、翌日病院を受診した。(休業21日)
5	R5	7月	製造業 (水産食料品)	30歳代	海上の生簀で作業を行っていたところ、腹部・背中に激しい痛みを感じ呼吸も苦しくなったのですぐに帰港し病院を受診した。(休業7日)
6	R5	8月	社会福祉施設	60歳代	保育園内の畑で除草作業中に多量の汗をかき、めまいを生じた。翌日になっても症状が改善せず、病院を受診した。(休業13日)
7	R5	8月	製造業 (飲料製造)	40歳代	原料を茹でる機械の近くで原料の詰まりを取り除く作業を行っていたところ、作業場が高湿多湿であったため体調不良となり、意識が朦朧として救急搬送された。(休業4日)
8	R5	9月	清掃・と畜業 (作業廃棄物処理)	50歳代	古紙回収作業中に体勢を前かがみにした時に目の前が暗くなり倒れたため、救急車を要請した。(休業9日)
9	R5	9月	農林業 (農業)	70歳代	日陰のない圃場で草刈作業を行っていたところ気分が悪くなり座り込み、同僚の呼び掛けにも反応しなかったため救急搬送された。(休業7日)
10	R5	9月	建設業 (その他の建設業)	30歳代	屋外で脚立の清掃作業を行っていたところ、体調不良となり、午前中で早退したが、翌日も改善しなかったため病院を受診した。(休業5日)